

目指す学校像	○学ぶよるこびのある学校 ○家庭や地域と連携した教育活動を行う、信頼された学校	○人との関わり合いを大切に、地域とともに歩む学校 ○安心・安全で美しい学校
重点目標	1 魅力ある学習指導の工夫改善・充実と健康教育の推進 2 豊かな心を育む教育の推進(生徒指導・教育相談の充実)安全・安心で美しい教育環境の整備 3 地域・保護者と共に歩む学校づくりの実現 4 働き方改革と教職員としての資質向上の推進	

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和6年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○学校評価アンケートの「授業に進んで取り組んでいる」に肯定的に回答した児童が88%である。また、市学調のアンケートで「読書が好き」と答えた児童は市平均より上回っている。 ○普段の学習の様子では、タブレットを活用した学習に興味を示す児童が多いが、活用状況のアンケートは市平均を下回っている。 ●さいたま市学力状況調査では、国語、算数とも市平均と比べ、下回る結果である。 ●全国学力状況調査の自校結果より算数の図形分野と国語の言語分野「知識・技能」に困難さがある。	・教師が授業改善や授業力向上を図ることで、子どもたちの学力向上を図る。 ・体育の授業や海老沼タイムを活用し、子どもたちの体力向上を目指す。	①授業研究(学校課題研究→個別最適な学び)を進めていく中で、1人1回研究授業、公開授業を実施し、指導事例として共有する。 ②ICTの活用(ドリルパーク・スタディサプリの活用)をすることで、興味をもって繰り返しの学習を行い基礎基本事項の定着ができるようにする。 ③読書タイムや図書館イベント等により読書の習慣化、生活化を図る。	①学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、教育課程の項目において肯定的な回答をする教員が90%以上となったか。 ②国語、算数について、市学調において令和4年度比向上したか。 ③学校図書館の貸出冊数を昨年度比5%増加したか。	学校課題研究(個別最適な学び)3年目のまとめとして1/19に研究発表会を行った。小学校の先生方だけでなく中学校の先生方、幼稚園・保育園の先生方、教員養成課程で学んでいる大学生にも参加してもらい、大変有意義な研修となった。教職員アンケートによると教育課程の項目においてほぼ全員が肯定的な回答をしている。 読書活動については昨年度同等の貸出数である。読書タイムでは全担任が読み聞かせを行った。	B	教職員、児童とも取組に対しての評価が高く、満足感があるようだが、相応した学力向上が見られなかった。しかし、児童の取組に対する姿勢は随分前向きになってきている。「問題を読み取る力」の不足が表面化してきたので、来年度以降の研究に生かす。また、読書活動に関しては、イベントがある時には児童の貸出冊数が伸びることがわかったので来年度も引き続き取り組んでいく。学級文庫や夏休みの貸し出しも考えていく。	・近隣幼稚園の職員として研究発表会に参加したが、多くの方から意見が出され、活発な議論ができた良い会であったと感じた。 ・児童アンケートの「ルールを守る」の結果や普段の様子からも子供の規範意識が高いことがわかる。そこをうまく学力向上につなげていけるよう指導を進めてもらいたい。 ・体力テストの結果を見ると、市平均を超えているものが多く、学校での体力向上の取組が成果を出していることがうかがえる。 ・児童というよりも、保護者のモラル指導をしていくことも必要に感じる。	
2	○「ルールを守る」「安全に気を付ける」について肯定的に回答した児童は94%96%と高い割合になっている。 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援・相談ができています。 ●朝、教室に入れない、体調不良で登校できない等、児童が抱える困難さがより複雑化している。 ●教職員による安全点検を確実に行うだけでなく、昨年度に引き続き児童が自ら危機を予測したり、回避したりする力を育くむことが課題である。	・児童の心に寄り添った積極的かつ繊細な教育相談及び生徒指導を組織的に展開する。 ・安全安心な「学びの場」としての施設・設備、環境の整備と自己防衛力の育成。	②初期対応を確実にし、きめ細かい児童理解を組織的に進める。可能性、個性、変化、変容を認める。 ③家庭や関連機関との連携やSC・SSWの活用し、児童理解に努める。 ④道徳の授業の充実、体験活動の場や機会の充実を図る。	①学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「学校(学級)が楽しい」の肯定的な評価が93%(昨年度比)以上となったか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、生徒指導、教育相談の5項目の肯定的な評価が95%(昨年度同様)程度となったか。	教育相談主任を中心に組織的に子どもたちの諸問題の解決に向けた取組を推進した。Solaの一むを開設し、個に応じた形で運営を始めた。新たな登校渋りの児童には、早急に保護者と連携をとり、関連機関へつないだ。児童アンケートでは昨年度を4p上回る結果となった。また、教職員アンケートにおいては昨年度と同様な結果となったが、『そう思う』が昨年度を上回る項目があった。	B	学校になかなか登校できない児童のためにSolaの一むを開設したが、それぞれ登校パターンや対応の仕方が異なるので、運用については教育相談部でさらに考えていく。また、教室にいられない児童の手立ても併せて検討していく。教職員のスキルアップも研修等を通して強化していく。	・学校は不登校の問題に対して、精一杯やっているのがうかがえる。しかし、Solaの一むも、現在の教職員の人数では、やりくりが大変。業務内容をしっかりと明記したうえで、ボランティアや児童民生委員の方の力を借りるのも一つの手ではないか。 ・そもそもボランティアに頼ることは難しい内容では。まずは教育委員会に専門の人員をつけてもらうように要求することが必要ではないか。 ・自宅を早く出すぎないように、登校時刻のルールをさらに指導していくことが大事。 ・学校の安全施設の老朽化もあるもので、引き続き安全面には気を付けていく。	
3	○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、年3回協議会を実施した。 ○コロナ禍でありながら、工夫を講じながら学校行事を実施した。 ●学校運営協議会での議論を家庭・地域にどのように広めていくかが課題である。 ●with コロナポストコロナに合わせてリニューアルした学校行事等の実施。	・学校運営協議会を中心に、地域保護者とともに歩む学校を目指す。 ・学校や地域の行事を通じて共に成長する機会の拡充	①スクールコミュニティによる地域・保護者との連携・協働の充実を図る。 ②学校HP内に、学校運営協議会の情報発信するページを作成し、取組について情報共有できるようにする。	①年に3回の学校運営協議会で、目指す児童の姿勢を共有できた。と回答する割合が90%以上となったか。 ②HP内にコミュニティスクールのサイトを新設し、サイトの更新を3回以上実施。	学校HP内に学校運営協議会のサイトを新設し、取組について情報共有した。また、今年度は児童会の役員児童に会に参加してもらい意見をもらった。学校HPのリニューアルに伴い、学校の様子を月に4回以上ブログで発信した。2学期よりペーパーレス化を推進し学校からの手紙類をデジタル化した。本校で行われたふるさと発見子ども祭りには地域の子どもたちが450人以上参加した。教職員アンケートは2項目とも昨年度同様の回答だったが、『そう思う』の回答が両項目とも昨年度を上回った。	B	来年度も学校の様子を様々な形で発信していく。特に、ホームページ更新は今後も計画的に実施していく。2学期から地域の行事に先生方も参加するようにしたので、来年度は年間を通して参加できるよう計画的に周知していく。	・学校評価アンケート「開かれた学校づくりの実現」結果の大幅な改善は、職員の方々が、元気に学校運営に取り組んでいる証である。 ・この協議会の議論を地域に広めていくということが、まだ不十分である。協議会が提言、評価したことを学校だけでなく、地域の力も併せて実現していけるようにしていくとよい。	
4	○学校課題研究と平行してICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を行ってきた。 ○高学年で教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができています。 ●ICTの活用について教職員での取組の差が見られる。 ●自分が担当した教科やクラスの状況について情報を共有したりすることが課題である。	・教職員の心身の健康に留意し、働き方改革を念頭におき互いを支え合いながら、楽しく生き生きと働ける職場環境を整える。	②ICTの活用方法についての研修を、3か月に1回以上実施する。 ③学年会を週に1回設定することで、情報共有の機会を確保する。 ③教職員の心身の健康に留意し、働き方改革を念頭におき、互いを支え合いながら、生き生きと働ける職場環境を整える。	①自らの目標に向けて業務改善に取り組む、85%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。 ③学校自己評価アンケートに係る教職員アンケートにより、働き方に関する3項目の肯定的な回答をする教員が昨年度比より向上となったか。	全教員がICTを活用した公開授業を行い評価しあうことで指導力向上につながることができた。今年度、学年会だけでなく教科等部会の日を確保したことで、情報共有や検討をする機会が増えた。ストレスチェックの結果から学校全体の健康リスクが10P下がった。働き方に関するアンケートは3つとも昨年より肯定的な回答をする教員が増えている。	A	今年度、デジタル化が進み、業務内容にかかる時間が短縮されてきた。来年度から導入されるスマートダッシュボードがスムーズに使用できるよう研修を進めていく。その、余裕ができた時間を教材研究や、児童理解、また、自分自身の研鑽に充てるよう声をかけていく。	・スクールダッシュボードの活用は、データを鵜呑みにしないで欲しい。データだけでなく、目の前の子どもの姿を大切にしてほしい。 ・今年度は学校の雰囲気や校長の学校経営がうまくいき、働く職員にとって良い職場になっていることがうかがえる。	

